

「新井宿まちづくりたより」より

2012～

伊奈氏ゆかりの地紀行



歴史部 伊奈氏研究班 大戸昭広

AGC 新井宿駅と地域まちづくり協議会

伊奈氏ゆかりの地紀行

生酒「伊奈備前守忠次」―まちづくりたよりより2015年1月号

歴史部会として伊奈氏研究に取り組んでいますが、それ以外にバスツアーや展示会、のらぼう菜の復活などの方が忙しくて大変です。でも、今までの伊奈氏研究は学術的なものに偏りすぎていて、無知な僕らにとっては敷居が高すぎたように思います。もうちょっとわかりやすく、馴染みやすくということで、いろんなアイデアを出してこの郷土に偉人を身近な存在に変えていければなと思っています。今後このコーナーでは伊奈氏研究で訪れた土地や史跡などを“日誌”という形で載せていきます。現場に行くといろんなことがありますので結構面白いと思います。では、今年も一年宜しくお願いします。写真は伊奈町が毎年出している生酒「伊奈備前守忠次」です。神亀酒造が造っているのも味は折り紙つきです。



遠藤兵内の墓（埼玉県美里町）

1月某日。明和元年（1764年）12月に発生した中山道伝馬騒動の首謀者遠藤兵内の墓に行ってきました。兵内は幕府の宿場への助郷村の拡大の撤回をめざし江戸への強訴を企図します。呼応して各地から集まった百姓20万。江戸期最大の一揆になりました。兵内は首謀者として獄門に処されましたが、増助郷撤回の要求は受け入れられました。地元では義民として祀られています。地元の人に道を尋ねると「兵内さん」と親しみを込めて呼んでいて、一身を賭した行動は今も感謝されていることを肌で感じる事が出来ました。歴史調査はできるだけ現場に行くべきですね。今年は彼の没後250年（2015年現在）になります。



永代寺門前町（東京深川）

2月某日。深川の富岡八幡宮にある宝暦8年（1758）に伊奈忠宥が寄進した対の石灯籠を見に行きましたが、せっかくだから深川飯でも食べていこうと思いまして彷徨っていました。この辺りは吉原に対抗する岡場所として粋と張りを看板にした辰巳芸者がいたところです。辰巳とは深川が江戸城から見て辰巳の方向にあるのでついた名前です。男の羽織を着て音吉だとか男名を名乗り、芸は売っても色は売らないのが信条で、ものすごい人気だったそうです。実際路地に入ると三味線の音が聞こえてきそうな雰囲気があります。そんなことを考えているうちに深川飯の事はすっかり忘れてラーメン屋に入ってしまった。写真は永代寺門前町。奥に見えるのは深川不動尊です。



琵琶溜井（幸手市）

4月初め琵琶溜井に行ってきました。琵琶溜井は4代伊奈忠克が開発した葛西用水の貯水施設で古利根川上にあります。川に堰を造り水位を上げてから周辺の水田に配水している様子がわかります。もとは利根川の本流だったのが瀬替えによって用水兼排水路として生まれ変わりました。暴れ川を廃川にせず用水路に変える。一石二鳥の策です。左側には葛西用水記念館があり、葛西用水の歴史や資料が見られますが予約制との事で入れませんでした。残念。記念館の前は庭園になっていて桜が綺麗に咲いていました。いつか予約してこようと思います。



玉川上水羽村取水堰（羽村市）

承応２年（１６５３年）江戸へ飲料水を供給するため、羽村で多摩川から取水し四谷まで全長４３キロの玉川上水が完成しました。総奉行に老中松平信綱、水道奉行に伊奈忠治、忠克父子、そして工事は玉川兄弟が請け負いました。羽村から四谷までの高低差が１００ｍしかなかった等、難しい工事だったようです。玉川兄弟は私財をなげうって工事をやり切り、その功績で玉川姓と玉川上水役を賜りました。羽村から取水された水は今も満々と湛え武蔵野の台地を流れています。写真は玉川兄弟の像



伊奈氏陣屋跡（伊奈町丸山）

天正１８年（１５９０）、徳川家康の関東入府にともない関東代官頭に任ぜられた伊奈熊蔵忠次は、周囲を湿田に囲まれたこの台地に陣屋を築き、関東の天領支配の拠点にしました。東西３５０ｍ、南北７５０ｍ。写真のように土塁が残っており、陣屋（役所）というより城郭のような造りです。残念なのは陣屋跡のあちこちに史跡指定反対の看板が立っていて、伊奈氏の事績を訪ねてきた人に対して、好意的ではない印象を与えていることです。史跡指定に住民の賛否はあると思いますが、看板を立てて無関係な人にまで意思表示することではないと思いました。写真は土塁址。



伊奈半左衛門忠順遺徳千秋碑（駿東郡小山町吉久保水神社・伊奈神社）

大正 3 年（1914）3 月。地元有志によってここ水神社に宝永噴火での伊奈半左衛門の事績を称える「遺徳千秋碑」が建立されました。題額は徳川家達（徳川家 16 代当主）撰文は徳富猪一郎（蘇峰）が行っています。建立より 200 年も前の話、しかも片田舎の村の人々が請願したにしては豪華すぎる組み合わせです。当地の人々の伊奈忠順顕彰運動の情熱が伝わってきます。



武蔵一宮氷川神社（さいたま市大宮区）

かつて氷川神社の参道は中山道でした。寛永 5 年（1628）伊奈半十郎忠治は中山道を西側に付替えそこを大宮宿としました。道中奉行による天保 14 年（1843 年）の調べで、町並みは 9 町 30 間（約 1.04km）。宿内人口 1,508 人（うち、男 679 人、女 829 人）。宿内家数 319 軒（うち、本陣 1 軒、脇本陣は 9 軒で中山道の宿場としては最多である。問屋場 4 軒、旅籠 25 軒。他に、紀州鷹場本陣〈北澤家〉1 軒あり。（ウィキペディアより） 宿場としては中規模ですが、神社の参拝客も来たでしょうからかなりの賑わいだったと思います。長い参道にけやきの大木は往時を彷彿とさせますが、かつては杉並木だったそうです。写真は氷川神社の参道



伊奈忠次・忠治の墓―勝願寺（鴻巣市）―まちづくりたよりより2016年1月号

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。伊奈氏の200年研究を始めてから早4年目になります。現地を見に行き、書籍、資料を読み、それをブログに上げたり、小冊子にしたりしてきましたが、昨年それがたまたまNHKのプロデューサーの目に留まりEテレ「知恵泉」での放送につながりました。物事地道にやれば誰かの目に留まるものだ実感しました。今年は最大の謎である伊奈家改易について調べてみます。そんなこんなで今年もよろしくお願いします。



勝願寺（鴻巣市）その2

伊奈家の菩提寺勝願寺は浄土宗、関東十八壇林（僧侶の学問所）の一つ。関東入府以後徳川家康が鴻巣を訪れた際、住職の円誉不残上人に深い感銘を受けて帰依。家康が牧野家、伊奈家に檀那契約を結ばせることでその地位を安定させました。ちなみに円誉不残上人は源長寺の開山もしています。境内には牧野家代々の墓所をはじめ、信州小諸城主仙石秀久、小松姫（真田信之＊幸村の兄の室。本多忠勝の娘）の墓などがあります。家康の次男結城秀康の越前移封によって、領主不在となった結城城の御殿、御台所、太鼓櫓、築地三筋堀、下馬札、鐘などを寄進されましたが、明治に竜巻や火災などでほとんどの施設は失われました。



勝願寺本堂



左から仙石秀久、真田信重、小松姫の墓

岡堰水神岬（取手市）

岡堰は寛永七年（一六三〇）、関東郡代伊奈半十郎忠治によって造われ、同じ小貝川上流の福岡堰、下流の豊田堰と共に関東の三大堰の一つ。400年近く相馬（取手市）2万石の田畑を潤してきました。この水神岬は中州など共に水流をジグザクにし堤防を護る役をしていたといいます。岬の中に水神宮が祭られています。

訪れたのは冬だったので堰は上がっていて水は干上がっていました。岡堰にはこのほか中の島があり複雑な構造になっています。それゆえ他にはない景観の美しさに心が奪われました。



静寂の岡堰水神岬



春には桜が咲く

のらぼう菜の碑（あきる野市）

のらぼう菜の碑は五日市にある子安神社の境内にあります。明和4年（1764）に伊奈忠宥がこの辺りの名主に闇婆菜（のらぼう菜）の種と栽培法を授け、これが天明・天保の大飢饉の際住民を飢えから救ったことから、この事績を永世伝えるために建立したとあります。同じ話が比企郡ときがわ町にもあります。のらぼう菜の原産は地中海で、それがオランダからジャワを経由して日本に入ってきたそうで、種から油も取れる付加価値の高い作物です。忠宥は生産性の少ない山あいの百姓たちにこの菜を与えて、彼らの生活向上に資するつもりだったのでしょう。



伊奈桜（長瀬町）

岩畳で知られる長瀬町には秩父三社のひとつ宝登山神社があります。その宝登山神社の前には江戸時代の初期、伊奈備前守忠次が献木した彼岸桜が植わっています。忠次は家康の関東入府以降、検地や治水、利水の他、寺社の保護にも尽力しました。当時大きな勢力を持っていた寺社勢力は関東の秩序を維持するために重要な存在でした。所領を安堵したり、お墨付きを与えたりして気を使っていたのです。大宮の氷川神社を再建したのも同じ理由です。この宝登山神社の桜はこういう経緯から献木されたのではないかと思います。



伊奈桜。現在は二代目ですが痛みが激しく、孫生えを育てています。

清澄庭園（深川）

清澄庭園は林泉回遊式庭園で、もともとその地の一部は豪商紀伊国屋文左衛門の屋敷跡と伝えられています。享保年間に下総国関宿藩主の久世大和守の下屋敷になりました。明治になり三菱財閥創始者の岩崎弥太郎が買い取り、社員の慰安や来賓接待用に庭園造成しました。実はこの辺りに伊奈家の深川屋敷があったとの記録があり、何か痕跡が残っていないかと訪ねたのですがありませんでした。面積は11,344坪。池の周りに築山や池亭、磯渡など配されていてとても美しいです。かつて江戸中にこのような大名庭園があったので、江戸は庭園のテーマパークのようだったのでしょう。



ときがわ町

「のらぼう菜」は比企地方の特産品として年々有名になっており、その甘くて濃いクセのない菜花を食べた方も多いでしょう。しかしこの野菜を普及したのが関東郡代10代目の伊奈忠宥（ただおき）ということを知る人は少ないです。平成16年ときがわ町の古民家で伊奈忠宥から種とその栽培指南書を頂いたという請書が見つかりました。それから幻の江戸野菜として比企地方の特産として復活しました。写真はその古文書が見つかった大野という集落にある直売所です。



編集後記

今回紹介したものは、「新井宿まちづくりたより」に連載している記事をまとめたものですが、歴史調査で今まで巡った土地のごく一部でしかありません。今後ともできる限りこういったまとめを出していきたいと思っています。伊奈家のゆかり地といっても、関東一円に無数にあり、全部回るには途方もない月日がかかります。また、今はもう跡形もないものも多く、行ったところで想像するのが難しい場所もあります。しかし、そこにはまぎれもなく伊奈家の人々が汗を流し、時代を建設していった歴史があるのです。今後もできるだけ足を運び、それを伝えていきたいと思っています。

新井宿駅と地域まちづくり協議会 伊奈氏の歴史研究班 大戸昭広

2017. 11月